



令和5年元旦、狭山湖からの日の出の様子



No.46 (令和5年)

社会福祉法人 鶴風会

東京小児療育病院
西多摩療育支援センター
後援会

連絡先

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話 042-561-2521 (代表)
東京小児療育病院
Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組む障害児者と
その家族を支援します

理事長就任のご挨拶

社会福祉法人鶴風会
理事長 鶴岡 広



薫風緑樹をわたる好季節となり、木々の緑の深みも増してまいりましたが、皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

私儀、令和5年3月27日、理事会において前松尾賢二理事長の後任として理事長を拝命し、重責に身の引き締まる思いですが、理事長就任にあたりご挨拶申し上げます。

まず初めに、松尾前理事長におかれましては、6年間にわたりご尽力を頂きました。

- 1頁 理事長就任のご挨拶
- 2頁 当法人の発展に多大なご尽力を下さった有馬正高先生のご逝去
- 4頁 東京小児療育病院院長就任のご挨拶
西多摩療育支援センター
センター長就任のご挨拶
- 5頁 2022年度東京小児療育病院行事報告
- 6頁 センター祭
- 7頁 寄附者名簿
- 8頁 寄贈者名簿

これまで、様々な難題を解決に導いてくださり当法人の発展に多大な貢献をなされたこと、心よりの敬意と謝意を表します。今後も当法人の理事として、大所高所から引き続きご指導を頂けること、併せて感謝申し上げます。

障害児者の療育を目的に、東京小児療育病院ができて60年を迎えようとしております。開設当時、障害児への社会的認識、理解度は低く、また障害児・者の専門医療者が少なかったため、試行錯誤の状態でした。

障害児・者を取り巻く環境は、年々変化しています。以前よりも重症で長寿命の患者さんが増えてきています。その理由の一つは、医療が進歩してきたからでしょう。

例えば、不妊治療など産婦人科医療や、以前であれば救えなかった命が助かるようになったのは、周産期医療の進歩があるで

しよう。その結果、医療の進歩と共に
肢体のみの障害児は減りましたが、そ
の代わりにてんかん発作などの神経症
状、呼吸や嚥下障害など複雑な複合的
障害を持つ重症の方は増えてきている
ように感じます。

入院・入所において開所当時は幼
かった利用者の方々も成長して大人へ、
そして高齢者になられています。障害
が良くなる方もいらっしゃるが、そ
ならない方もいらっしゃる。その
場合は、療育ではなく、療養として介
護へと移行してゆく必要があるでしょ
う。

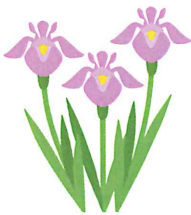
外来においては、重度化してゆく在
宅で生活している障害児者およびその
家族を支援していく必要があります。
またそれだけではなく、最近では、家
庭など子育て環境学校や、地域など集
団生活での人間関係、社会環境の変容
に伴いによるためか、発達障害として
の症状が顕在化し診察に訪れる患者さ
んが著しく増加しています。この方々
も幼児期・学童期・思春期・青年と成
長に伴い、不登校、いじめ、その他の

心理的な問題となる行動を呈する場合、
これらへの対応を迫られます。

開設してほぼ60年、人によっては還暦
を迎えるにあたって、一度立ち止まり、
初心に還り、私たちは何をしなければ
ならないのか、何ができるのか、その
ためにどうすればよいか、を考える必
要があります。

大変厳しい経済情勢の中、また、半
世紀以上の時を重ね老朽化した東京小
児療育病院の建替や西多摩療育支援セ
ンターの大規模修繕など、当法人とし
て多くの課題を抱えている中、法人の
基本理念を大切に、事業運営の方向
を明確にして、その理念とビジョンを
継続的に実現していくことができるよ
う、皆様方のお力も借りながら法人経
営に取り組んでいきたいと考えており
ます。

今後とも変わらぬご厚誼とご指導の
ほど、よろしくお願ひ申し上げます。



**当法人の発展に
多大なご尽力を下された
有馬正高先生がご逝去**

社会福祉法人鶴風会後援会
会長 青木 継稔

有馬正高先生が二〇二二（令和四）
年十二月十二日にご逝去され、享年93
歳でした。



当社会福祉法人鶴風会東京小児療育
病院は、開設・開院以来、有馬先生に
大変お世話になり発展にご尽力頂きま
した。当法人の多くの医師は有馬門下
生であります。鈴木康之先生、椎木俊
秀先生、佐々木征行先生、清水教一先
生は、いずれも有馬門下です。私自身
も有馬先生に直接的間接的にご指導を
受けた門下生のひとりとして自負してい
ます。

当法人元理事長の故倉島摂子先生は、

重症心身障害児（者）の医療・研究の
ために専門医を求めて有馬先生にご相
談し、鈴木康之先生（有馬門下生・当
時大分医科大学小児科講師で教授は小
川昭之先生）を紹介され、三顧の礼を
以って東京小児療育病院の責任者とし
て赴任して貰ったと、よく自慢話を何
度も話して下さったことを忘れること
はできません。

有馬先生は、小児科医・小児神経専
門医・障害児医学パイオニアとして、
その活動範囲は極めて広く、小児神経
筋疾患、遺伝性神経筋疾患、先天代謝
異常症、先天異常症（染色体異常・奇
形症候群を含む）、内分泌代謝性疾患、
重症心身障害児（者）医学・医療・精
神遅滞（知的障害）、発達障害などの
領域で絶えず第一線に立たれ活躍され、
リーダー的存在でした。生涯現役を貫
かれました。とくに、社会福祉法人全
国重症心身障害児（者）を守る会の会
長や理事長を最後まで勤められてい
らっしゃいました。

また、東邦大学でご着任中に発表さ
れた有馬症候群（1971）は、ジユ

べール症候群関連疾患に含まれて、指定難病177に登録されています。ウイルソン病、フェニールケトン尿症、メープルシロップ尿症、Lesch-Nyhan症候群、Crigler-Najjar症候群、Menkes病などの各種先天性代謝異常症等について色々とで教示賜わりました。とくに、ウイルソン病については、多くの症例とともに日本ウイルソン病研究会、ウイルソン病友の会（患者様とご家族の会）をご一緒に育んで頂き感謝申し上げます。

先生は、生涯「障害児（者）医学」に情熱を注がれました。東京都立府中療育センター、都立東大和療育センター、都立東部療育センターの開設・運営に直接関与された業績は後世に残るお仕事と評価されています。重症心身障害児（者）の医学・医療の重要性を説かれ実践され、障害児（者）医学を確立されました。本法人鶴風会東京小児療育病院・みどり愛育園の施設長にも就任して下さいました。

有馬先生のお人柄は、頭が低くなたにも優しく接せられ、人の話しをよ

く聞いて下さり誰からも信頼されていきました。患者様やご家族にもとても親切であり、とことん問題解決に色々相談に乗っておられて、私自身『有馬先生は私の求めていた医者の方』と尊敬し続けて来ました。

教育者としての有馬先生は、とても優しく穏やかですが回診等に主治医に質問されて、適切な答を言えない時は一回は見逃してくれますが、次回に同じ質問をされ調べていないと、次は許してもらえず、見捨てられてしまいます。「にっこり笑って人を斬る」という厳しさがありました。有馬門下生は皆さん必死に勉強されたことと思います。

先生のお父上は、有馬正文中将（海軍特攻隊最高司令官）であり終戦の日に責任を感じられ、特攻隊戦闘機に乗りマニラ沖に散ったお話です。私は、江田島海軍兵学校博物館にて大きな写真など記念手記を拝見しました。

有馬正高先生のご略歴（主なもの）

一九二九（昭四）鹿兒島市にて出生

一九五三（昭28）東京大学医学部卒業
一九五四（昭29）東京大学附属病院にてインターン修了、医師国家試験合格・医師免許取得、東京大学医学部小児科入局

一九五六（昭31）同上助手
一九六一（昭36）同上小児科講師・病棟医長、日本小児神経学会設立参加
一九六四（昭39）東邦大学医学部小児科助教授

一九七〇（昭45）鳥取大学医学部付属脳幹性疾患研究施設教授・同附属病院神経小児科部長

一九七四（昭49）第10回日本小児神経学会学術集會会長（米子市）

一九七七（昭52）日本小児神経学会理事

一九七八（昭53）国立精神神経センター疾患研究第二部長

一九八五（昭60）国立精神神経センター副院長

一九八六（昭61）日本先天異常学会学術集會会長（東京）

一九九〇（平2）国立精神神経センター台病院院長兼附属看護学校校長

一九九一（平3）日本発達障害学会第4代会長

一九九二（平4）国立精神神経センター武蔵病院院長

一九九四（平6）国立精神神経センター武蔵病院名誉院長、**社会福祉法人鶴風会東京小児療育病院・みどり愛育園施設長**、東邦大学客員教授、

社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会副会長、東京都立東大和療育センター長

一九九五（平7）社団法人日本知的障害連盟会長、アジア精神遅滞連盟副会長

二〇〇一（平14）勲三等瑞宝章受賞
二〇〇三（平15）第16回

Asian Conference on Mental Retardation学術集會会長（筑波）

二〇〇四（平16）都立東部療育センター開設準備室長

二〇〇五（平17）都立東部療育センター院長

二〇一四（平26）都立東部療育センター名誉院長、社会福祉法人全国重症心身障害児（者）を守る会会長、

同上理事長

二〇一六（平29）3月米寿祝

二〇二二（令4）12月12日ご逝去

〔その他の主な役職〕 公的役職、都

立府中療育センター開設委員・同上小児科医長、中央児童福祉審議会臨時委員、総理府振興局兼務、中央薬事審議会臨時委員および先天異常調査委員、国立特殊教育総合研究所運営委員、東京都重症心身障害児（者）施設入所等選考委員会委員、東京都特別支援教育就学支援委員会委員、東京都周産期医療協議会委員、文部省重症心身障害児研究班、厚生省オーファンドラッグウイelson病治療薬開発研究班班長等。

東京小児療育病院 院長就任のご挨拶

東京小児療育病院
院長 佐々木 征行



令和5年4月1日付で東京小児療育病院院長を拝命いたしました。

簡単に自己紹介をいたします。昭和58年3月に新潟大学医学部を卒業し、そのまま同大学小児科に入局しました。

医局ローテーションで大分医大小児科に1年間派遣され、そこで小児神経の手ほどきを受けました。鈴木康之先生とはすれ違っていたようです。それから小児神経に興味を持ち、小児神経専門医を目指して昭和63年4月に前職場である国立精神・神経センター（以下N CNP）武蔵病院小児神経科レジデントになりました。

当時N CNPでは、有馬正高先生が副院長、櫻川宣男先生が小児神経科部長でした。有馬先生からは神経学的所見の取り方や評価の仕方などを外来や回診や症例検討会などを通して直接伝授していただきました。そして、患者さんご家族への向き合い方を学び、どのような患者さんに対しても最善の医療を尽くすことを教えていただきました。また櫻川先生、桢中征哉先生、高嶋幸男先生などからも多くのご指導をいただきました。2年間のレジデント研修中に東京小児療育病院でもときどき当直をさせてもらいました。当時も人工呼吸器を使用している入所者が大勢おられ、驚きました。夜間の外来

で重い呼吸困難を呈する方に遭遇し右往左往したこともあり、鈴木先生や舟橋先生に助けていただきました。

平成2年4月、櫻川先生に付いてN CNP神経研究所に移りました。ここでの研究で当時東邦大学の小児科教授だった青木継稔先生より学位をいただきました。2年間、米国国立衛生研究所（NIH）で基礎的な研究を行い、平成6年8月、N CNP小児神経科常勤医師となりました。一般病棟勤務後に重症心身障害病棟担当医長を6年間勤め、病棟に張り付いていました。平成14年に部長となり、それから20年間過ぎました。この間に国立病院系の重症心身障害病棟の元締めとしてネット回線を利用して長期入所者の医療情報を収集し、原因疾患や年齢別統計や重症度解析なども行っていました。年々長期入所者が高齢化し、重症化する様子をリアルタイムで見てきました。最近では、希少小児神経疾患の遺伝子診断や神経筋疾患の遺伝子治療などの研究にも関わってきました。また別の機会にこれらのことも記載できればと

思います。そのような研究に熱中しておりましたが、気が付いたら令和5年3月に定年となり、このたび新たな人生を歩み始めることになりました。皆様、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

西多摩療育支援センター センター長就任のご挨拶

西多摩療育支援センター
センター長 清水 教一



2023年4月1日付で西多摩療育支援センターセンター長を拝命

いたしました清水教一です。3月までは東邦大学医療センター大橋病院小児科に勤務しておりました。専門分野は小児神経学ならびに先天代謝異常症です。大学病院時代は、神経発達症、てんかん、脳性麻痺などの神経疾患とWilson病などの先天代謝異常症を中心に診療と研究を行っておりました。私は1983年に東邦大学医学部を

卒業し、同大学付属大橋病院小児科に入局しました。その時の教授、そして診療部長が現鶴風会後援会会長の青木継稔先生です。青木先生のご指導のもとで私は医師としての第一歩を踏み出しました。その後、1987年から国立精神・神経センター武蔵病院小児神経科のレジデントとなり、昨年12月に逝去された有馬正高先生のもとで小児神経学を学びました。

私は1993年に大橋病院小児科の助手になり、障害児・者への医療と本格的に関わり始めました。大学病院の外来で神経疾患の患者様の診療を行う傍ら、東京都立の知的障害の養護学校（現 特別支援学校）精神科校医を兼務しました。そこで月に1度、生徒さん達の発達特性に基づき学校生活や家庭生活での困りごとや悩みに対して、保護者や教員の方々に助言や指導を行う必要に応じて医療機関の紹介も行ってきました。この仕事は約30年続けました。また1998年から世田谷区総合福祉センター（現 世田谷区保健センター乳幼児育成相談）の嘱託医

を行ってきました。そこでは乳幼児を対象として、言葉の遅れなどや行動の問題など様々な発達の問題をもつお子様たちの診察を行い、診断と療育方針の検討を行いました。処遇（療育方針）決定会議では、臨床心理士、言語聴覚士、保育士、看護師そして対象児の発達状況に応じて理学療法士と作業療法士の方々と色々議論を行いました。この会議で各専門職の方々のご意見を聞いて議論を行えたことは、とても貴重な経験、勉強になりました。そして2008年からは大田区立こども発達センターわかばの家の嘱託医も行ってきました。ここでは、通所しているお子様の診察を行い、診断と保護者へ指導と支援を行ってました。

私の今までの大病院と地域のいくつかの施設での経験が、これからの西多摩療育支援センターでの業務にどれ位活かせていけるかはわかりませんが、地域ならびに西多摩地区の様々な障害を持つ皆様の診療と支援に、微力ではありますがですが尽力していきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

2022年度 東京小児療育病院 行事報告

看護・生活支援部
生活支援担当科長 渡辺 明彦

方に手形や足形とりを楽しんでもらい、その手形・足形をパーツとしてつなぎ、1つの大きな虹に仕上げました。エシペーターホール前に掲示してありますのでお立ち寄りください。

新型コロナ感染症の流行の波を乗り越えながら、私たちの生活には制限と制限という言葉がついてまわり、入所されている利用者の方々もそのような生活をおくられてきました。「何かみんなと一緒に楽しくすることはないか」「こう言った声はこの間ずっと聞かれました。「感染予防のため」という言葉がいつしか合言葉のようになり、「コロナ禍も3年目に入った頃、「このままの生活でいいのだから」、「考え方を一歩前進させよう」そんな声が高くなり、看護・生活支援部では令和4年度に向けて『活動推進プロジェクトチーム』を立ち上げ、各病棟で行われている各種活動の見直しを始めました。

そのチームでは活動の見直しを行い、4病棟全体が協力し合い1つの物を作り上げようと「巨大アート制作」を立案しました。各病棟では全利用者の

も一つ、職員と利用者の方々全員で参加できる催し物として「もちつき」を計画しました。十数年前までは毎年行われておりましたが、だんだんとお餅を食す方が少なくなり、開催することもなくなっていたため、久しぶりの企画となりました。日本の風物詩である「もちつき」を年末の12月27日に開催し、お正月に向けての「お供え餅づくり」としました。餅つきの経験者が皆に声掛けを行いながら、個々に杵を手にし、もち米のにおいや餅の感触、掛け声、笑い声、そんな雰囲気を感じながら戸外に出て味わうことができました。

久しぶりに大勢でにぎやかに楽しむことができ、何より利用者の方や職員の笑顔、笑い声が聞かれたことは、コロナ禍で失われていたものを一つ取り戻すことができたと感じました。今後ともこの感染症の状況変化を見据えなが

ら、常に考え方を前進させ、利用者の生活がより豊かなものになりますよう支援を続けていきたいと思えます。



行事「もちつき」の様子

センター祭

西多摩療育支援センター 生活支援部
入所係主任 山崎 晴彦

11月23日、西多摩療育支援センターと日の出福祉園の共催で「第2回西多摩・日の出Web祭り」(第18回センター祭)をオンライン形式で開催いたしました。

共催も2回目となり、一部直接交流も視野に話し合いを進めてきましたが、施設関連の感染も多く、地域の施設はビデオ紹介とし、2施設での開催となりました。

今年のテーマは「利用者同士の交流を楽しむ」ということで、利用者参加型のプログラムを両施設で検討してきました。当初は9月を予定していましたが、コロナウイルス感染症の影響で延期となり、開催自体も危ぶまれましたが、一部内容を変更し実施することができました。

午前中のイベントは、日の出福祉園企画の音楽プログラム「みんなでいっしょにレッツ！ミュージック」がありました。利用者の皆様がグループごとにタンバリン、鈴、カスタネット等の楽器を手に取り、音楽療法士の講師のリードで、サザンオールスターズや米津玄師等のヒットソングに合わせて楽器を演奏しました。また、曲に合わせてタオルを使ったストレッチ運動やダンスを行い、支援に入った職員も汗ばむほどの運動で、みんなでリフレッ

シユすることができました。

お昼は、地域の施設紹介ビデオを見ながら季節の食事です。「エビマヨソテー」と「チキンソテーキノコソース添え」の2品から好きな料理を選んで頂き、どちらにも栗ご飯がついており、秋の雰囲気味わいながら会食することができました。

午後のイベントは、施設の部署紹介からスタートし、それぞれ特色のある紹介でお互いの様子を知ることができました。親睦を深めた後に、西多摩療育支援センター企画 グループ対抗〇×クイズ「西多摩・日の出ウルトラクイズ」を行いました。人気クイズ番組であったアメリカ横断ウルトラクイズをイメージして、両施設の利用者のみなさまと職員が考案した普段の活動や職員にまつわるユニークな問題を出題しました。クイズの正解を目指す真剣な様子とともに笑いに包まれた催し物となりました。



企画「ウルトラクイズ」の様子

オンラインによる催し物と並行する形で、センター内では体験プログラムとして、NPO法人「キッズアートプロジェクト」様の企画によるレジリエンスを行いました。ボランティアのアーティストの方々の手ほどきを受けながら、宝石のように輝くパーツを使い、髪留めやキーホルダーを夢中になって作成していました。

日の出福祉園をはじめ、ビデオ紹介に参加してくれた施設やキッズアートプロジェクトのみなさまのご協力もあり、一日を通して、楽しく交流を図ることができました。本当にありがとうございました。コロナウイルス感染症が落ち着いた際は、ご家族や地域のみなさまと一緒に楽しめるセンター祭を再び開催したいと思っております。



企画「レジン工作」の様子

社会福祉法人鶴風会へ

寄附者(2)芳名

令和4年7月～令和5年2月
481名(五十音順・敬称略)

青木 継稔・青木万智子・青山 幸生
青木りつ子・青木 悦・青木 徹
青木 美澄・赤星 恵子・阿部 俊彰
阿部 正和・阿部美代子・安斎 忠治
安達 久夫・安藤 高夫・安藤 博文
安部 良治・荒井 陽子・荒木眞佐子
秋山 朋代・新井 恒子・赤木 勝友
浅井 浩司・浅子 薫衣・浅沼 桂子
浅川 恭行・浅川 和子・浅田 栄
足高 毅・足立 嘉子・朝川 孝幸
朝日恵美子・明間 邦子・有村 洋
伊藤 圭子・伊藤 治男・伊藤 正俊
伊藤 文子・伊藤 茂理・伊豆蔵英明
井上 昌光・井上 美俊・井上 和子
井村 和博・一林 繁・逸見 仁道
稲垣 登稔・岩村 吉晃・岩田 敏男
今井 晃・石原 学・石川 至
石塚 博子・石田 哲朗・石田 里子
飯国紀一郎・飯国 弥生・飯国洋一郎
飯村 誠・飯塚 健雄・飯塚 卓
滑原 博・宇野久仁子・宇野 拓
白井 雅美・瓜田 純久・海野 俊雄

上田 建・植田 桂子・内山 利満
内野 正文・梅津裕美子・梅田みほ子
梅田 嘉子・梅田 正法・海老原健介
榎本 和子・海老根伊佐子・江元 智子
江川 惠基・江部 寛・枝松 秀雄
大館 一彦・大場 幸延・奥秋 保
奥住 一雄・岡村美智子・岡田 征彦
岡田 裕美・岡田 倫明・及川千代子
小原 桂子・小原 明・小川 昭子
小川 正俊・小畑 恵子・小野寺仁至
太田美つ子・大江 容子・大高 敏子
大川原直子・大村 一夫・大塚 周二
大塚 淳子・大島 剛・大島 範子
大島 眞理・大高 究・金森 勝士
加藤奈津子・加藤まこと・加藤 裕芳
加藤 葉子・加藤 陸美・河合 典子
河上 修・河上 双葉・河村 康明
河村 裕子・梶山 祥子・鎌田 直子
金子 康子・金子 明寛・金親 正敏
金杉 靖子・甲斐 俊吉・垣内 史堂
鹿島田忠史・狩野 修・春日井正典
勝見 千明・勝瀬 明子・神田 悠美
川島 福恵・柏崎 操・貴島 佳世
鬼頭 秀明・菊池 信介・菊池 信子
菊池 信彦・菊池 洋子・北原 信三
木下三和子・木下 俊彦・木村 鈴代
久保 初美・久保 博・久保田紀男

久保田伸枝・桑原 利章・黒瀬 嘉幸
黒木 貴夫・倉根 理一・國立 實夫
月花 亮・是枝誠太郎・近藤 弘子
駒松 仁子・向山 秀樹・向山 徳子
幸田 文一・小柴 弘巳・小柴 裕子
小西 正子・小泉 蓉子・小竹原安見
小竹原良雄・小島 國利・小峰八ツ三
小林純二郎・小林 寅喆・小蒔 達郎
後藤加寿美・後藤 薫・佐々木徹郎
佐々木道子・佐々木裕美・佐多 由紀
佐渡 昌子・佐藤 重雄・佐藤 俊郎
佐藤 信一・佐藤 信秀・佐藤 宣
佐藤 中・佐藤 裕美・佐藤 洋子
佐藤 和子・坂本眞理子・鮫島 寛次
鮫島 桃子・酒井 謙・西條 公勝
先山 隆司・澤井 寛人・眞田 喬子
眞田 壽彦・齋藤 学・齋藤 登
齋藤 洋子・齋藤 房道・齋藤 長則
塩野 毅・塩野 久子・塩野 則次
四宮 雅子・志鳥眞理子・獅山富美子
篠 昌治・篠 繁市・篠原 洋子
柴 忠明・柴 迪子・柴田仁太郎
柴崎 裕久・新海 雅貴・新後閑周二
新谷 義克・正田 嘉子・正田 穂積
島田 長人・島田 敏雄・島野 光
忍田 拓哉・白井美奈子・白井 久己
白石 芳子・白石 祐子・鈴木 美帆

須貝 研司・須田百合子・杉 薫
杉山 尚子・杉山 卓哉・杉本 寛子
菅野 寿子・菅野 壽子・炭山 嘉伸
炭山 朋子・鈴木力ツ子・鈴木 秀明
鈴木 信介・鈴木 達夫・鈴木智恵子
鈴木龍一郎・干 哲三・芹澤 滋幹
清宮 祥子・宗 恒雄・袖山 昌子
袖山巴恵子・武居 友子・館田 一博
館野 香織・館野 昭彦・高橋 実花
高橋 和俊・高月 誠・高松 研
高村 安子・高塚 純・高田 博子
多胡 博雄・谷口 利江・谷藤 龍正
竹中玖美子・竹中 紗代・竹内 忍
田岡 博明・田中 政信・田島 政晴
田畑 友美・武村 保栄・武智 信幸
武田 毅・高橋 京子・高橋 正
高橋比路美・高波眞佐治・高木 真一
高木 芳夫・高良 毅・築山 巖
月本 一郎・月本 伸子・津賀 節子
堤 俊一郎・塚原 英基・塚原 洋子
辻本公美子・坪井久美子・戸谷 夏子
所 常明・東條 賢一・朽久保哲男
永山 隆一・永澤 康滋・中園 宏紀
中園奈津子・中岡 義明・中川 和彦
中村みゆき・中村志津子・中村俊一郎
中村 豊・中村 友美・中谷 尚登
中島 桂子・中島 末美・中野 紀子

中野 敏江・中澤 一治・長岡 貞雄
 長岡 理大・長山 徹・長船 宏隆
 長田 囃雄・長畑 節子・長尾 二郎
 長澤 貞継・苗村 みえ・並木 温
 西宮 常代・西出 幸子・西川 朋子
 西村 千秋・西田 隆寛・二宮 文乃
 二瓶 浩一・額田 均・根本 暁
 野見千鶴子・野見山捷子・野上和加博
 野村 正征・野村 直子・野池 博文
 野中 杏栄・野中 博子・野田 文子
 花岡嘉奈子・花岡 晋平・花岡 正哲
 橋詰 直孝・橋口 玲子・原 むつ代
 原 俊介・原田 孝・原田千鶴子
 原田裕美子・早原 千鶴・早川 浩市
 長谷川和寿・長谷部孝子・波多野道弘
 畠山 政信・発地 美介・蜂矢 正彦
 林 佳子・林 鴻程・濱中知恵子
 弘中 史・土方 淳・蛭田 啓之
 平山玖美子・平川 舜・平塚 肇
 平田 徹・平野敬八郎・平野 盛久
 平野 陽子・榎田 智子・藤田 啓子
 藤本 愛・堀 順一・細澤 裕子
 星 恵子・星出 陽子・星田 宏
 星野 恭子・星野 光雄・堀之内八千代
 細江 伸央・松井 満治・松原 美保
 松原 龍弘・松島 英乃・松本 修三
 松本 誓子・前澤 善一・馬嶋 順子

牧野 紘美・宮地 文子・宮島 良征
 宮脇 浩紀・三宅 三・三登 和代
 三輪東一郎・水吉 秀男・水野久美子
 水野 惇子・水落 笙子・村川 公一
 村川世津子・村國 均・武藤 護彦
 守田 正三・守屋 栄・森 紘子
 森 克彦・森澤 豊・望月 祐一
 望月 陽子・安土 達夫・山下 弘文
 山口 美穂・山川ふみ子・山村 憲
 山谷 敏男・山田 輝代・山田耕一郎
 山本 温子・山本 昌彦・山門 誠
 山澤 一郎・山崎 純一・谷野 徹
 保田つた子・矢野ともね・柳 恵子
 柳瀬 達夫・柳川 忠二・湯浅 玲奈
 湯澤 俊・吉川 芳登・吉永 克己
 横山 祐作・横田 卓史・吉田 計夫
 吉田 宏重・吉田 正己・吉田 友英
 吉澤 定子・与田 仁志・龍 倫之助
 若田 宣雄・渡辺 直彦・渡辺 敦子
 渡邊 正志・鷺澤 祐子・鷺澤 尚宏
 石見医院
 (有)沢工業所
 (株)エクセル・サービス
 大島椿(株) 鈴木敏江
 総合川崎臨港病院
 (株)クリニコ 永井亜紀子
 (有)クリーンワーク

(株)コイワイ
 (株)コンテス
 (株)幸和義肢研究所
 (有)清水商店
 医療法人社団昌仁醫修会 小児神経学
 クリニック 理事長 星野 恭子
 立川酸素(株)
 トマトの会
 (株)東新商会
 東京医療クリーン事業協同組合
 東邦大学 看護同窓会
 東邦大学薬学部鶴風会 理事長 加藤裕芳
 中村建設(株)
 医療法人 萩一步会
 八王子建物管理(株)
 馬場クリニック
 ファイナンシャルアライアンス(株)杉林勤
 (株)フラインフーズ
 (株)ベリユーサ
 公益財団法人 星総合病院
 (株)増田禎司商店
 三村整形外科 三村眞
 (有)森永牛乳 小平販売所
 祐天寺松本クリニック 松本光
 医療法人社団 嘉明会 横浜東邦病院



**社会福祉法人 鶴風会へ
寄贈品ご芳名**

令和4年7月～令和5年2月
10名(五十音順・敬称略)

りんご	大鷗町農業青年会
福豆	一如社
ひざ掛け・玩具類	コストコホール
タブレットPC	セール(株)入間倉庫店
児童書・医学書	東京善意銀行
切手類	松井秀司
木琴	匿名
ピアノ(ATLAS A5D)	匿名
紙おむつ	匿名
スリングシート	匿名



コストコホールセール(株)入間倉庫店から寄贈の品々